

甲府駅南口周辺地域の修景の方向性（素案）

1. 甲府駅南口周辺地域の位置づけ

山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり
 拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリア

2. 甲府駅南口周辺地域の修景の基本理念

風格ある歴史景観と都市景観が調和した
 居心地が良い、賑わいのある空間づくり

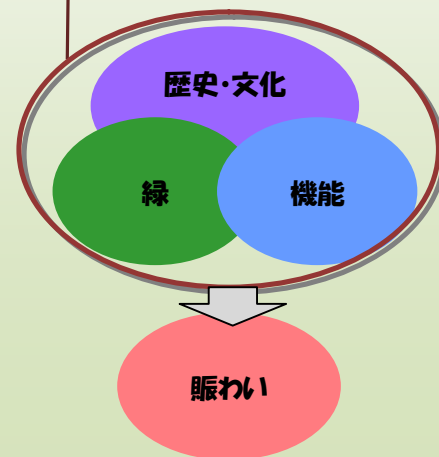
県都の顔であり、来訪者をもてなす玄関口として、
 甲府城跡等の歴史・文化資源、各種公共施設等の既存ストックを活かし、風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくりを進めていく。

地域の人々（住民）にとって、
 誇りを持って気持ち良く暮らせる空間は、また来訪者にとっても、
 来て良かった、また来てみたい、
 住んでみたいと思える空間である。

3. 甲府駅南口周辺地域の修景の基本目標

- 歴史・文化が感じられる空間づくり
 - ・・・ 様々な歴史・文化が垣間見える空間
 - ・・・ 甲府城跡が見え、近くに感じられ、行きたくなる空間
 - ・・・ 歴史的建造物が垣間見える空間
- 緑豊かでゆとりが感じられる空間づくり
 - ・・・ ゆとりと広がりがある空間
 - ・・・ まちの緑が豊かに感じられる空間
 - ・・・ 山の緑が見える空間
- 使い勝手の良い空間（機能性、防災性の高い空間）づくり
 - ・・・ 回遊性が高い、歩いて楽しい空間
 - ・・・ ユニバーサルデザインに配慮したやさしい空間
 - ・・・ 災害に対する強さを兼ね備えた空間
- 時を越えて賑わい（華）を感じられる空間づくり
 - ・・・ 未来を見通して新たな賑わいを生み出す空間
 - ・・・ 四季折々の表情を楽しめる空間
 - ・・・ 朝、昼、夜の豊かな表情のある空間
 - ・・・ 一定の統一感のもとで個性がきらりと光る空間

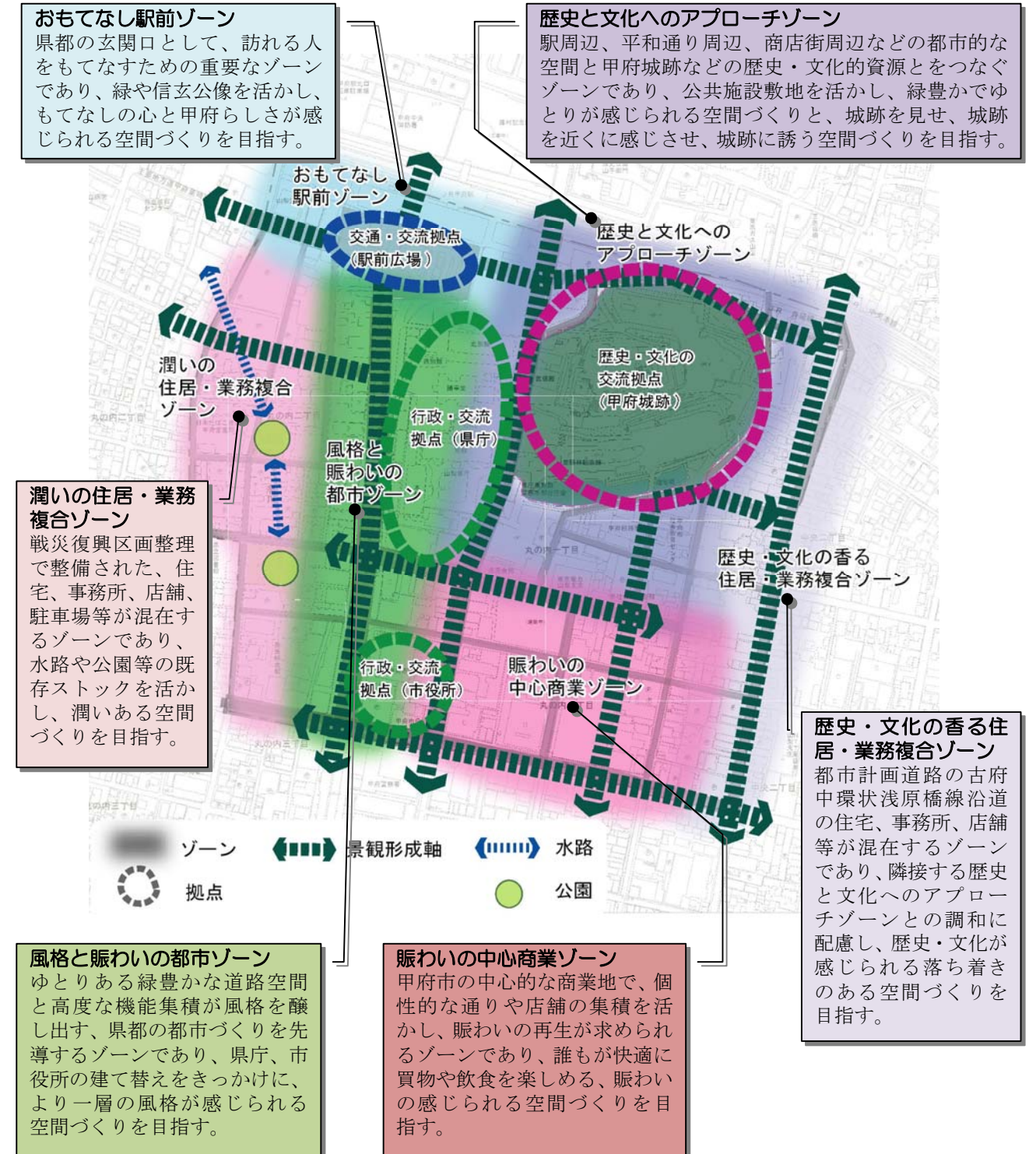
目指すべき空間
 = 歴史・文化、緑、機能が
 適度にバランスし、
 賑わいを生み出す空間



4. 甲府駅南口周辺地域の景観形成の骨格

ゾーンごとにそれぞれの特性にあった景観づくりを進めていく。
 各ゾーンの景観形成をリードする空間、ゾーン間の結びつきを強める空間を拠点及び景観形成軸として位置づける。

■甲府駅南口周辺地域の修景方針図（案）



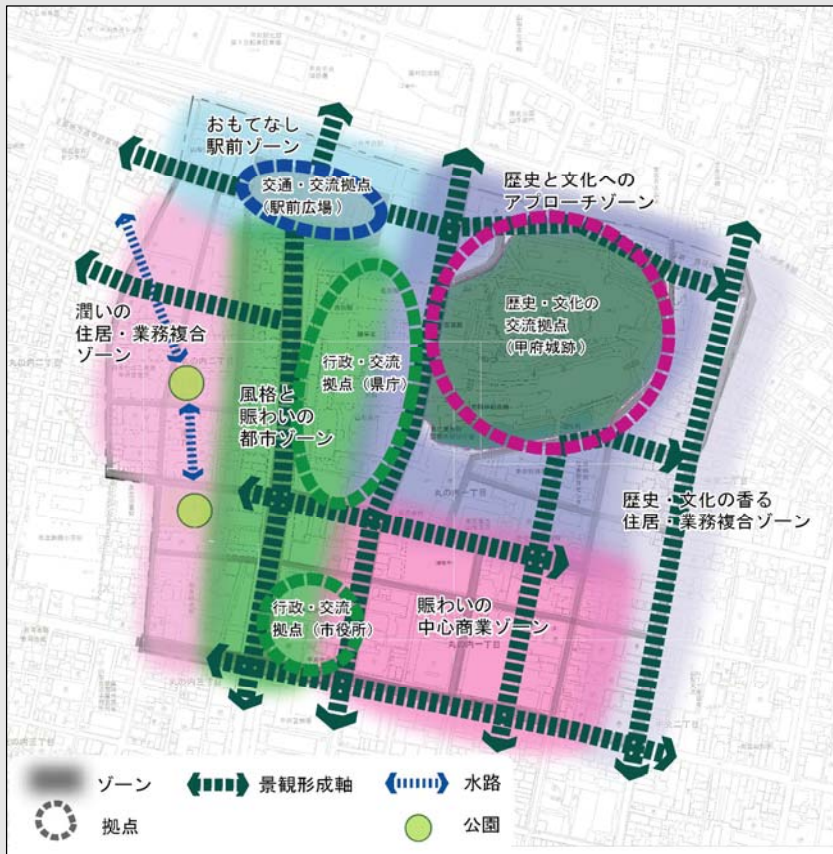
修景の理念と基本目標

風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地の良い、賑わいのある空間づくり

～ 地域の人々(住民)が誇りを持って気持ち良く暮らせる空間、来訪者が、来て良かった、また来てみたい、住んでみたいと思える空間 ～

- 歴史・文化が感じられる空間づくり
- 緑豊かでゆとりが感じられる空間づくり
- 使い勝手の良い空間づくり
- 時を越えて賑わい(華)が感じられる空間づくり

景観形成方針図



景観形成の方向

おもてなし駅前ゾーン = 駅前広場周辺	県都の玄関口として、訪れる人をもてなすための重要なゾーンであり、もてなしの心と甲府らしさが感じられる空間づくりを目指す。駅前広場と周辺建物等が一体となって、緑豊かでゆとりが感じられる、人に優しく分かりやすい空間、訪れる人に信玄公を印象づけ、甲府城跡に誘う空間を演出する。
風格と賑わいの都市ゾーン = 平和通り周辺	ゆとりある緑豊かな道路空間と高度な都市機能集積が風格を醸し出す、県都の都市づくりを先導するゾーンであり、県庁、市役所の建て替えをきっかけに、より一層の風格が感じられる空間づくりを目指す。平和通りのリニューアルとともに県庁、市役所敷地の修景整備などを行い、四季折々に豊かな表情を見せる空間を演出する。
歴史と文化へのアプローチゾーン = 舞鶴城公園周辺	駅周辺、平和通り周辺、商店街周辺などの都市的な空間と甲府城跡などの歴史・文化的資源をつなぐゾーンであり、公共施設敷地を活かし、緑豊かでゆとりが感じられる空間づくりと、城跡を見せ、城跡を近くに感じさせ、城跡に誘う空間づくりを目指す。城跡の眺望を妨げる建物等をできる限り減らし、開放的な空間づくりを行うとともに、城跡周りの回遊性や隣接ゾーンとの連携を高める道路(歩行空間)の充実を行う。
歴史・文化の交流拠点 = 甲府城跡	歴史・文化交流拠点として、甲府城跡の保全・修復を進めるとともに、訪れる人をもてなすための空間づくりを行う。
歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン = 古府中環状浅原橋線沿道	都市計画道路の古府中環状浅原橋線沿道の住宅、事務所、店舗等が混在するゾーンであり、隣接する歴史と文化へのアプローチゾーンとの調和に配慮し、歴史・文化が感じられる落ち着いた空間づくりを目指す。都市計画道路の整備をきっかけに、ゆとりある歩行空間の確保と沿道景観整備を行う。
賑わいの中心商業ゾーン = 中心商店街周辺	甲府市の中心的な商業地で、個性的な通りや店舗の集積を活かし、賑わいの再生が求められるゾーンであり、誰もが快適に買物や飲食を楽しめる、賑わいの感じられる空間づくりを目指す。一定の統一感のなかでも、四季折々に、また昼と夜とで様々な表情を見せる空間を演出するため、商店街(通り)のリニューアル、花・緑、イルミネーション等による賑わいの演出、未整備の都市計画道路の整備などを行う。
潤いの住居・業務複合ゾーン = 駅西側周辺	戦災復興土地区画整理事業がなされた、住宅、事務所、店舗、駐車場等が混在するゾーンであり、水路や公園等の既存ストックを活かし、潤いある空間づくりを目指す。濁川、公園、区画道路等のリニューアルを検討する。

考えられる修景メニュー(案)

- ・南口駅前広場のリニューアル(歩行者優先・安全確保のための空間づくり等)
- ・駐輪場の整備・充実
- ・甲府城跡との連携強化(案内機能、歩行空間の充実等)
- ・平和通りのリニューアル(アーケードの撤去/駐輪施設(スペース)、自転車レーンの整備/断面構成見直し等)
- ・歩道橋の扱い検討(撤去/改修等)
- ・県庁西側入口周辺の修景整備
- ・市役所敷地の修景整備
- ・防災新館建設に伴う県民に身近で利用しやすい開かれた県庁舎敷地の整備
- ・舞鶴通りのリニューアル(歩道拡幅、景観に配慮した舗装等)
- ・県民会館跡地等の甲府城跡の眺望に配慮した空間づくり
- ・税務署敷地等の活用
- ・回遊性・周辺ゾーンとの連携を高める道路の整備・充実
- ・甲府城跡の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討
- ・歴史的建造物の保全・復元
- ・観光売店、茶店等の休憩施設の設置
- ・草花による魅力の演出
- ・都市計画道路の整備(古府中環状浅原橋線)(歩道整備/電線類の地中化等)
- ・甲府城跡の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討
- ・商店街(通り)のリニューアル(歩道舗装、ストリートファニチャーの見直し)
- ・賑わいを演出する工夫(花・緑、イルミネーション、ライトアップ等)
- ・都市計画道路の整備(城東通り)
- ・道路の通行規制の見直し(規制の廃止、新たな導入)
- ・遊亀橋通りの南側への延伸
- ・公園のリニューアル(施設の機能更新)
- ・濁川のリニューアル(親しみやすい水辺づくり)
- ・区画道路等のリニューアル(景観に配慮した人にやさしい道づくり)

地域全体の共通事項

各施設やゾーンの個性を尊重しつつも、一定の統一感や連続性が感じられる空間づくりを目指す。このため、デザイン指針に基づく公共空間・施設の整備とともに、民有地における適切な景観誘導を行う。積極的な緑化により緑豊かな空間づくりを行うとともに、放置自転車等、ポイ捨てなど景観を阻害する要素の是正に努める。

- ・ポケットパークの整備
- ・公共空間・施設のデザイン指針の策定
- ・建築物等に対する適切な規制・誘導
- ・屋外広告物に対する適切な規制・誘導
- ・民有地の緑化
- ・放置自転車等の規制
- ・ポイ捨ての禁止
- ・民有地に関するもので市の景観計画等で検討する事項

6. 主要地点の修景イメージ

南口駅前広場のリニューアルのイメージ（その1）

■コンセプト：歩行者にやさしい、緑豊かな広場づくり

南口駅前広場は、既存の緑や信玄公像を活かし、歩行者にやさしく、緑豊かで甲府らしいシンボル性の高い空間づくりを目指す。
現在の広場形態を尊重しつつも、効率的な空間利用を実現するためロータリーの見直し等を行い、歩行者空間や修景（環境）空間の拡充を行う。
信玄公祭などに配慮した空間づくりを行うとともに、訪れる人に甲府城跡の存在をアピールでき、行きたいと思わせるための工夫を行う。

■歩行優先の空間づくり

- ・ 駅から平和通りへ向かう明確な歩行者動線を確保するため、バス待合所周辺を改良し歩行空間を拡充する。
- ・ 車との交差点は歩行者の安全性を確保するため、歩道と同様の舗装（イメージハンブ）とする。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、段差や勾配がきつい箇所の改善を行う。

■タクシープールの移設又は縮小と安全で分かりやすい交通動線の実現

- ・ 客待ちタクシーが連なる雑然とした雰囲気を解消するため、タクシー配車はショットガン方式とし、広場内のタクシープールを移設又は縮小する。
- ・ 山交百貨店北側道路は駅前広場とは関係のない通過交通を排除するため、西側方向の一方通行とする。
- ・ 安全で分かりやすい交通の流れを実現するため、一般車は原則として西側エリアのみを利用させる。

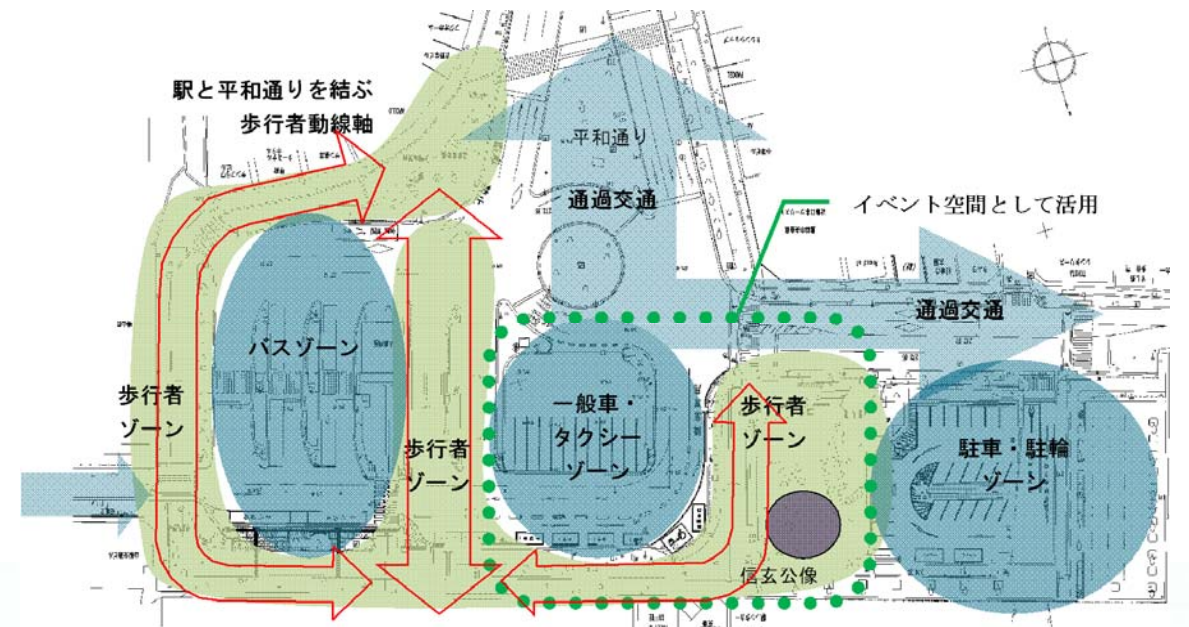
■平和通りと一体となった緑豊かな美しい空間づくり

- ・ 平和通りと一体となった緑豊かな空間を演出するため、平和通りに至る歩行空間に高木を列植する（森の中を抜けて平和通りに行くイメージ）。
- ・ 老朽化したハイポール照明、宝石をかたどったシンボルなどを撤去し、洗練されたデザインの照明、シェルター、ベンチ、サイン等の設置を検討する。
- ・ 必要性が低く景観的に好ましくない案内板やサインは整理、撤去を検討する。

■信玄公像、甲府城跡等の歴史・文化を活かした空間づくり

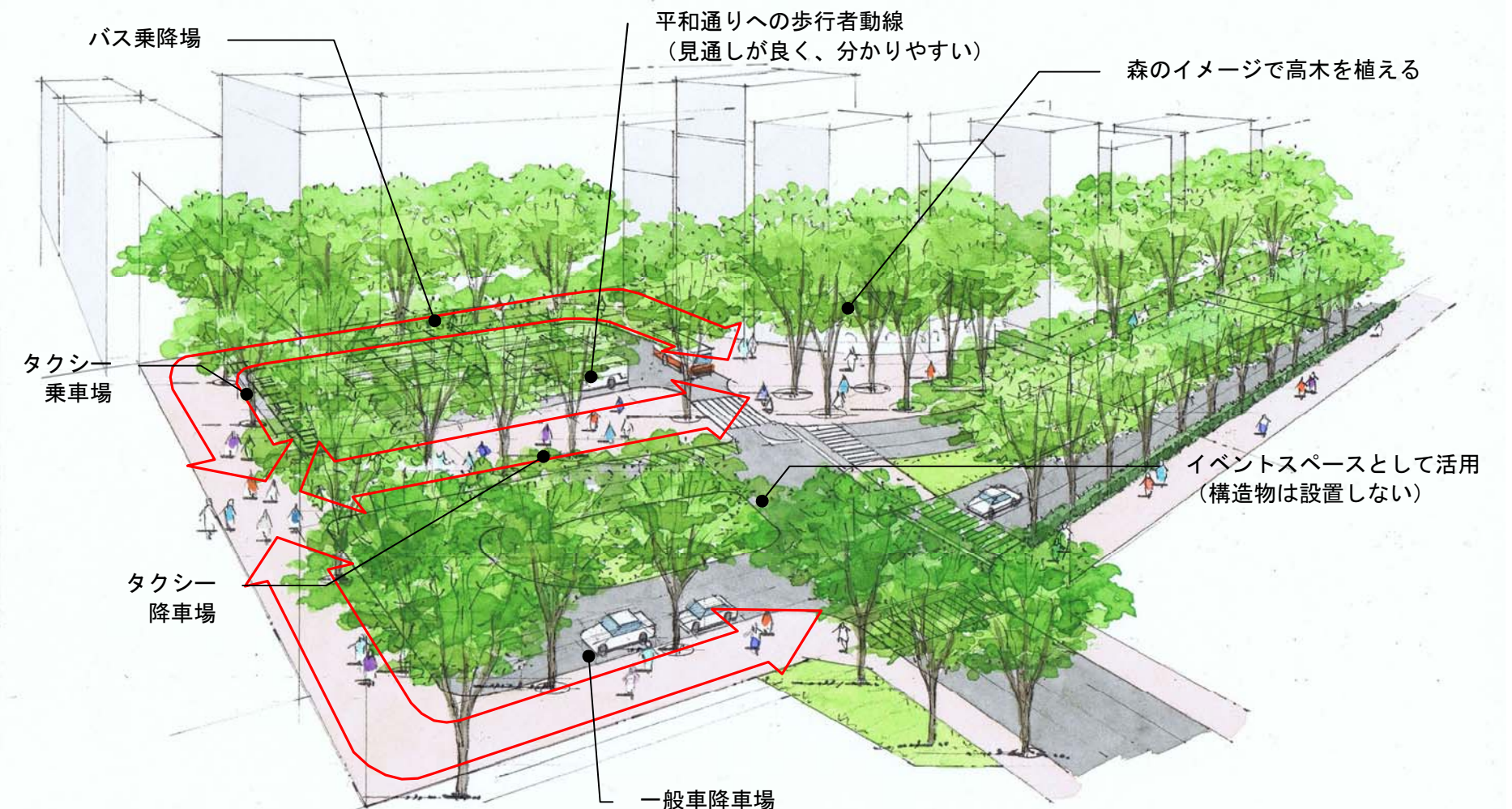
- ・ 西側エリアは信玄公祭の出陣式などイベントスペースとして活用するため、イベントに支障となる構造物等は設置しない。
- ・ 訪れる人に城跡の存在をアピールし、行きたいと思わせるため、城跡への案内や城跡に向かう歩行空間の充実などを行う。

ゾーニング図



駅前広場のイメージ

～ 信玄公像後側のやや高い位置から東側を望む ～



平和通りのリニューアルのイメージ（その1）

■コンセプト：風格と賑わいの感じられる緑豊かな開放的な空間づくり

平和通りでは、ゆとりある道路空間と長い時を経て大きく育ったケヤキの緑、そして沿道の高度な機能集積が京都のシンボル道路にふさわしい風格を醸し出している。今後は、県庁や市役所の建て替えをきっかけに、まちの緑がさらに豊かに感じられ、山並みが見え、季節ごとに様々な表情を見せる空間づくりを行い、ここを舞台に様々な人が行き交い、集う、賑わいの感じられる空間づくりを行う。

■東側歩道のリニューアル（アーケードの撤去等）

- ・左右（東西）バランスのとれた開放的で緑豊かな空間を演出するため、東側歩道は老朽化したアーケードを撤去し、西側と同様にけやきを植樹する。
- ・賑わいとリズムの感じられる街並みを演出するため、可動式の庇を設置する。
- ・歩道舗装やストリートファニチャーは、お店や緑を引き立たせる脇役に徹し、落ち着いた色調、デザインとする。通りとしての統一感、連続性に配慮し、西側歩道とあわせることを基本とする。
- ・買物客等に安らぎのスペースを提供するため、低木植栽の間にベンチを適切に配置する（不要な駐輪の抑制も兼ねる）。
- ・歩行者と自転車の安全性を確保するとともに自転車利用者に配慮し、自転車道及び自転車駐輪スペースを整備する。
- ・お店からもれる光と緑が拡散する光が織りなす暖かみのある夜間景観を演出するため、歩道上（埋め込み式）や低木植栽への照明設置を検討する。

■中央分離帯の縮小

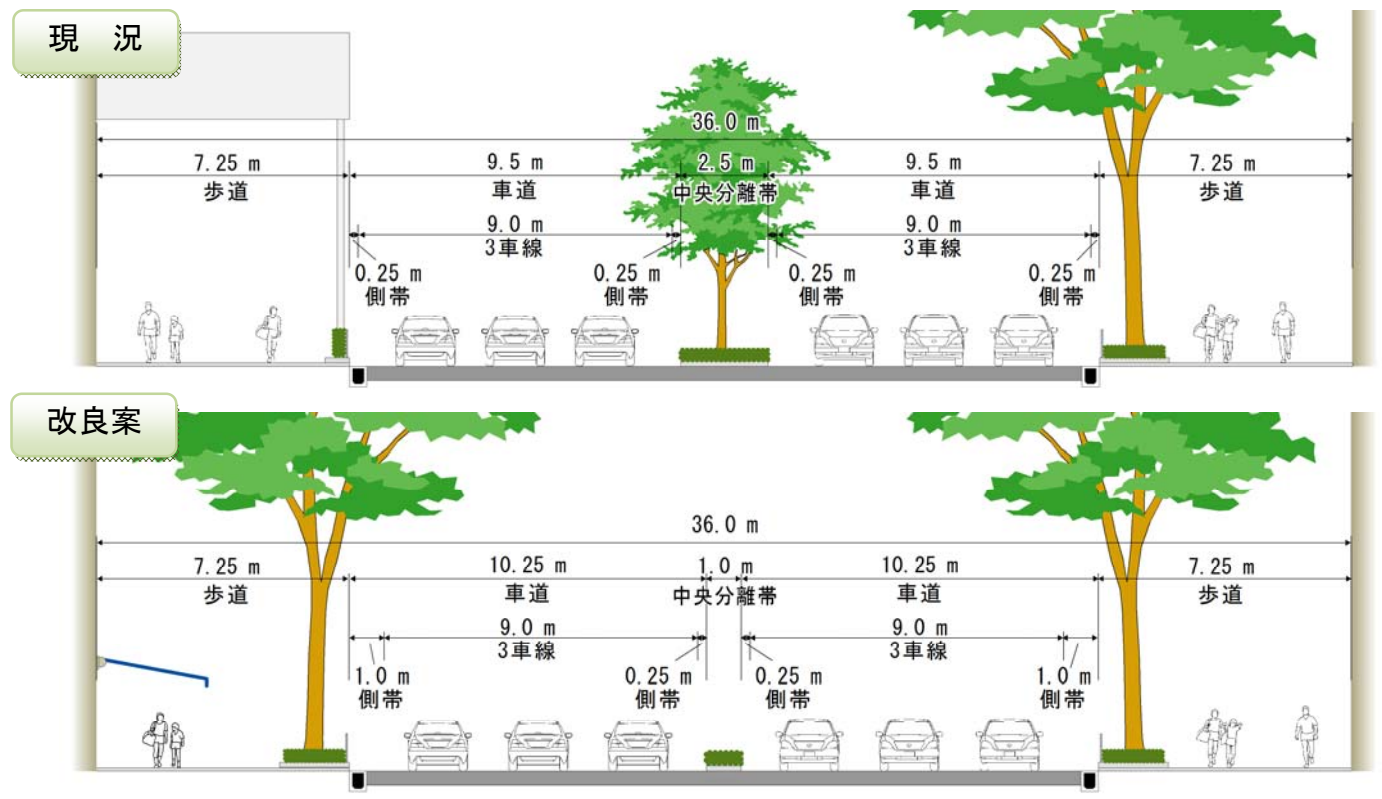
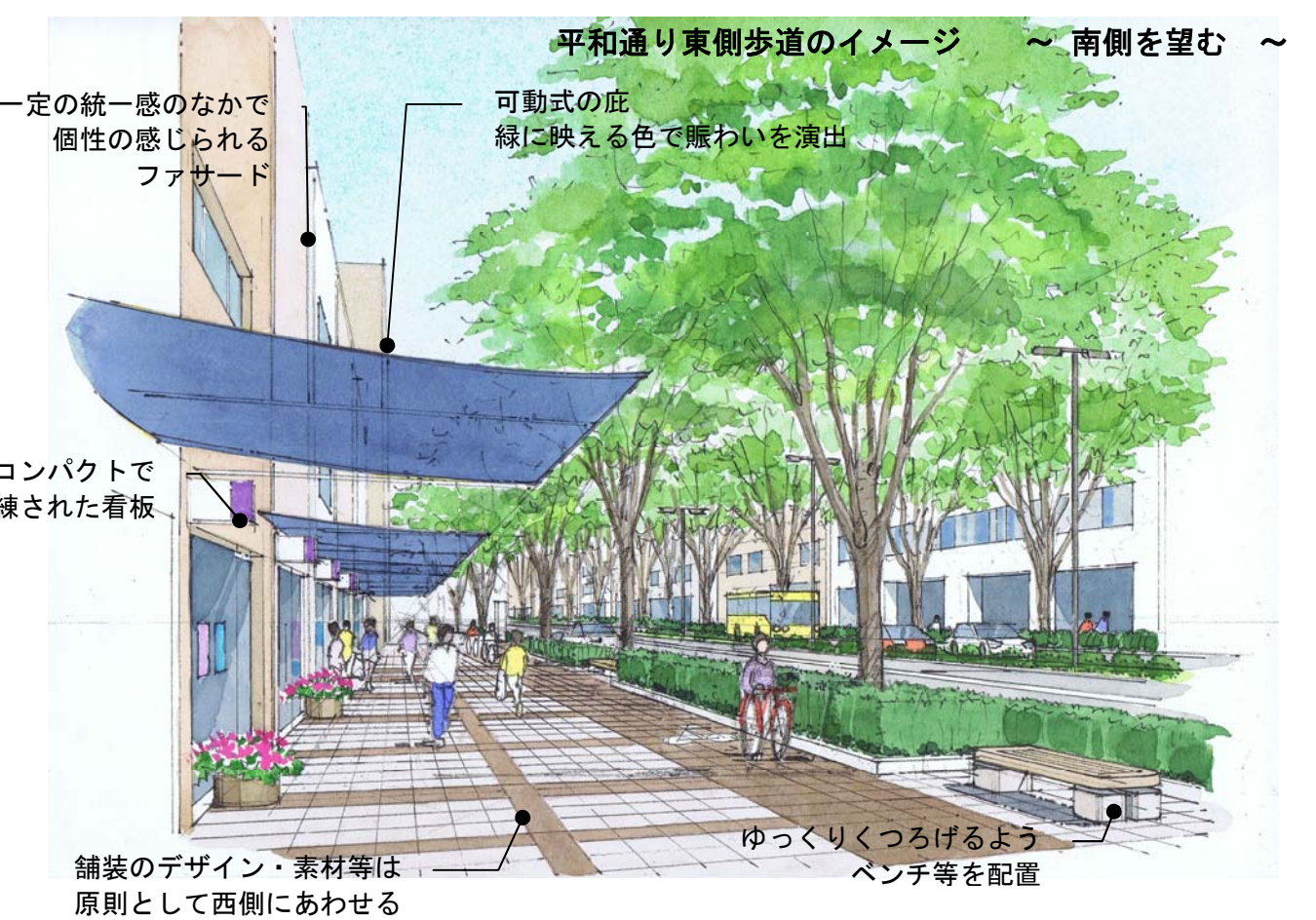
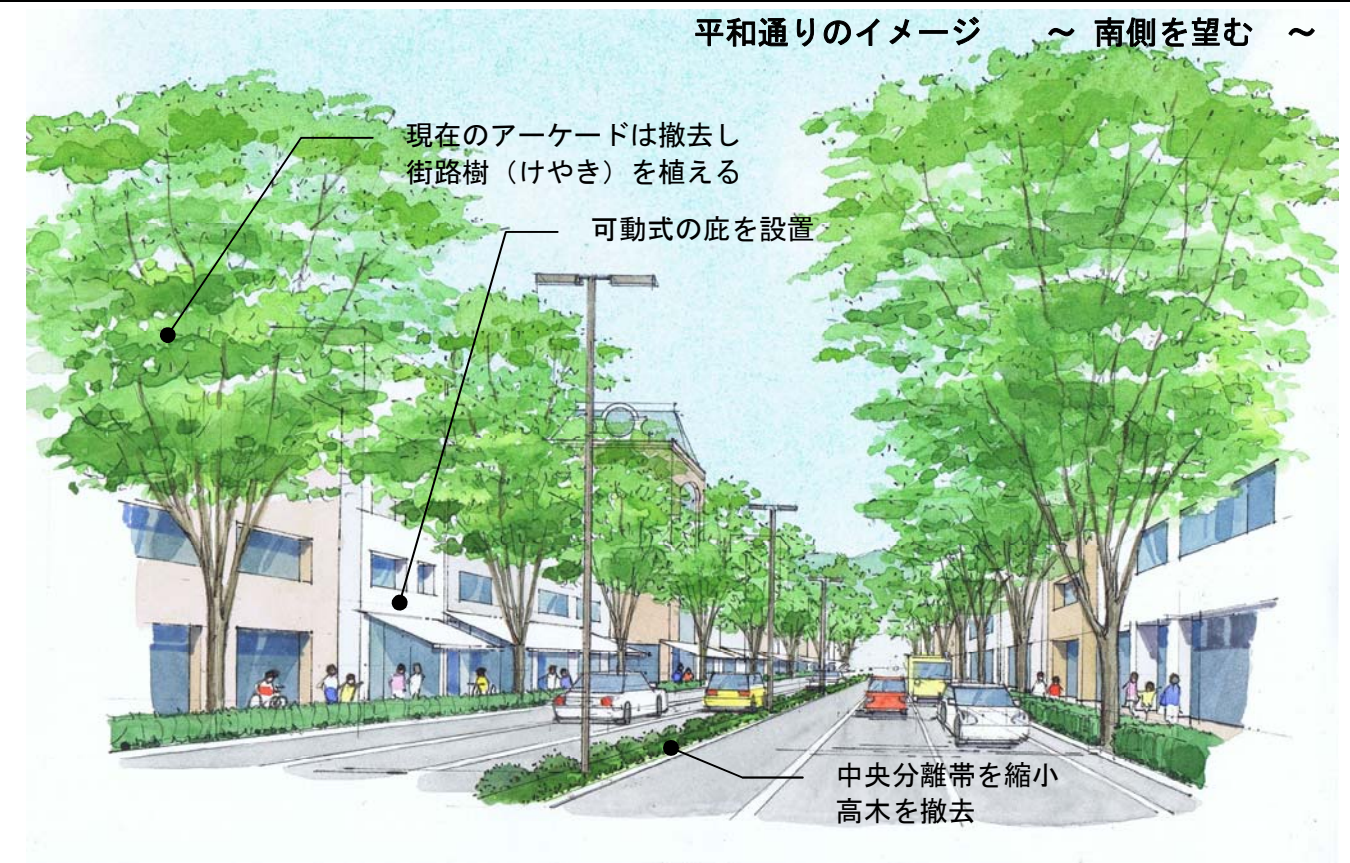
- ・通り全体を見渡せる開放的な空間とし通行車両からの見通しを確保するため、中央分離帯は縮小し、高木は撤去する。中央分離帯の縮小分は車道（側帯）にあてる。これにより、信玄公祭の様子も沿道からより見やすく、観客と行列の一体感も増し、迫力のあるものとなる。

■老朽化した道路施設等の撤去・改善

- ・見通しの確保、ユニバーサルデザインの観点から歩道橋は撤去する。
- ・その他老朽化し風格ある景観づくりにそぐわない道路付帯施設やサイン等は撤去・改修を検討する。

■店舗のファサード、看板等の色調、デザイン等の統一とアクセントカラー等による個性の演出の提案

- ・一定の統一感のもとで個性豊かで賑わいのある空間を演出するため、店舗のファサードの色調、デザインや看板の大きさ、デザインなどをある程度統一するとともに、アクセントカラーや照明等を効果的に活用する。
- ・広がりを演出するため、極力、壁面後退を誘導するとともに、後退部分（中間領域）における花木、ライトアップ、等しつらえの工夫を誘導する。



舞鶴城公園西側 舞鶴通り沿道のイメージ（その1）

■コンセプト：甲府城跡と一体となった緑豊かで開放的な空間づくり

舞鶴通り沿道では、県庁敷地、県民会館跡地などを活かして、緑豊かでゆとりが感じられる、城跡を見せ、城跡を近くに感じさせ、城跡に誘う空間づくりを目指す。

■県庁敷地 = 緑豊かで開かれた空間

- ・県庁敷地側では、防災新館建設にあわせて、緑豊かで開放的な空間を演出する。
- ・歴史的価値が高く景観的にも優れている県庁別館が通りから見えるよう、樹木等の配置に配慮する。
- ・敷地内は歩行者優先の公園的空間とし、平和通りとを自由に行き来できる通路を確保する。
- ・防災新館周辺には城跡の眺めなどを楽しめる広場空間を確保する。
- ・県庁別館などをライトアップし、夜間も印象的な空間を演出する。

■舞鶴通り = 周辺敷地と一体的な空間

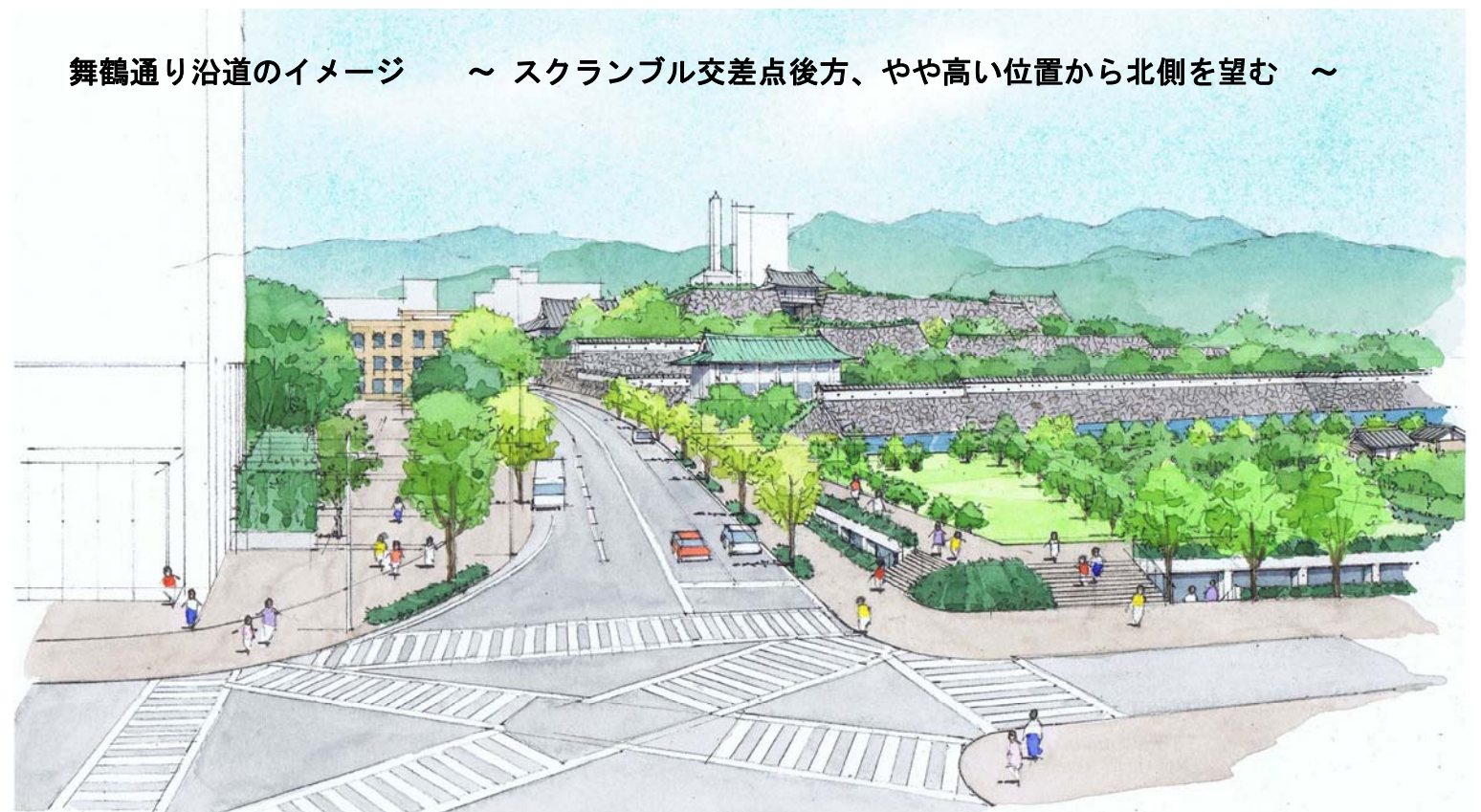
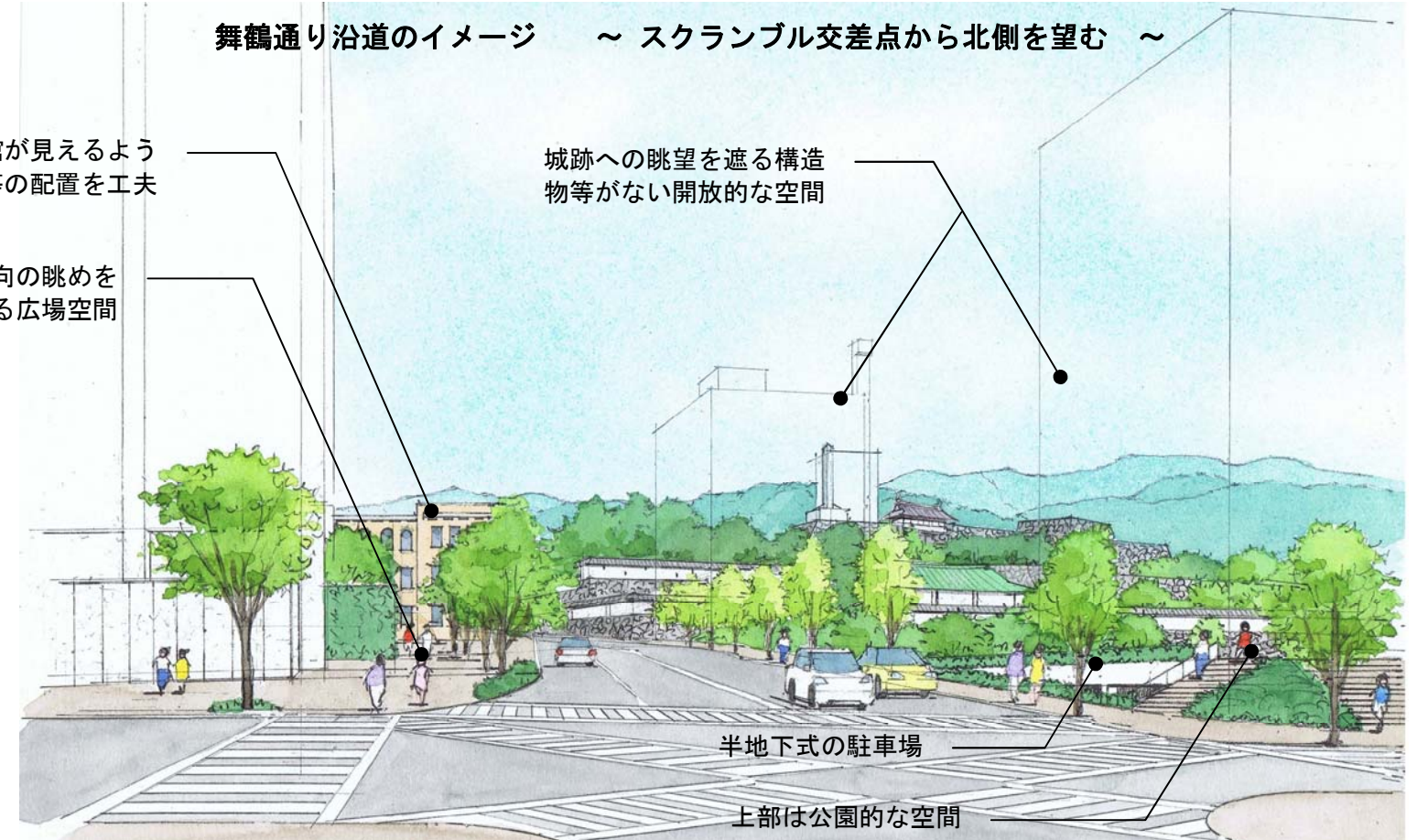
- ・周辺敷地との段差にも配慮し、周辺敷地と一体的な空間を演出する。
- ・歩道舗装やストリートファニチャー等は、城跡の石垣との調和に配慮し、シンプルかつ落ち着いたデザイン・色調とする。

■県民会館跡地等 = 甲府城跡を見（魅）せる開放的な空間

- ・城跡を見（魅）せるため、眺望を遮る構造物等がない、開放的な空間を演出する。
- ・スクランブル交差点付近は重要な視点場として位置づけ、ここから城跡が良く見えるように、県民会館跡地に設ける駐車場は半地下構造とし、上部空間を公園的に利用する。

■お堀沿いの回遊道路の整備

- ・お堀沿いの道路は、城跡を見ながらゆったり歩けるように、歩行者優先の空間とする。
- ・訪れる人が、ゆっくりくつろげるように、税務署敷地を活用した和風の茶店や休憩施設の整備を検討する。



お堀沿いのイメージ ～ 遊亀橋方向を望む ～

